2019.12.20

大草

**遊びとコンプライアンス（骨子案）**

第○章　遊びとコンプライアンス

目次

１．はじめに

・遊びとは、真面目や仕事の反対語である。

・コンプライアンスとは、仕事に付随する倫理性のことをいう。

・この小論文の目的

遊びとコンプライアンス（仕事の倫理性）の関係をさぐり、仕事に遊びの要素を取り入れることがコンプライアンスの向上につながることを明らかにしたい。そのために

・仕事と遊びの関係をさぐる

・昔は仕事と遊びは不可分であった。今は仕事と遊びが分断され、人間疎外が発生している。この人間疎外がコンプライアンス違反を生みだす原因の一つになっているのでは？もしそうであれば、コンプライアンス違反を低減させるために仕事の人間疎外要因を取り除く必要がある。仕事に人間性を取り戻すために、仕事に遊びの要素を取り入れていくことが有益ではないか。

・仕事から遊びの要素が追放されたと考えられるので、仕事に遊びの要素を取り入れていくアプローチ方法をとる。そして仕事上のコンプライアンスの実効性を高めていく方策を考えてみたい。

・それらを通じて、企業のコンプライアンスの向上に役立てたい。

２．仕事と遊び

　2.1仕事とは何か

　　・人間にとって有用な何らかの価値を生みだす活動

　2.2　仕事の歴史

　　・狩猟社会、牧畜社会、農耕社会、工業社会、金融社会という社会段階における仕事

　　・産業革命後の労働における人間疎外（労働力の商品化、仕事の成果、分業、時間・場所・仕事内容の決定権など）

　2.3　遊びの歴史

　　・太古、遊びは、労働や宗教と結びついていた。

　　・神聖→通俗→遊びへと進展してきた。

　2.4　仕事と遊びとの交わる点（そこにコンプライアンス意識が生まれるのか？）

　2.5　「仕事を遊ぶこと」の意味

　　　・今、仕事を遊ぶことのできる社員が求められている

　　　・これを知る者はこれを好む者に如かず、好む者は楽しむ者に如かず、楽しむ者も遊ぶ者に如かず

　　　・仕事を遊ぶ社員の必要条件

　　　　①その仕事を心から楽しんで行うこと

　　　　②失敗しても笑い飛ばせること

　　　　③その仕事をして偉くなろうと考えないこと

　　　　④仕事仲間と協力できること

　2.6過去のコンプライアンス違反の考察

　　　・その違反行為は、遊びの6つの定義のどれに該当するか。

　　　・遊びの定義は以下の通り

　　　　①自由

　　　　②一定の空間・時間内

　　　　③結果が未確定

　　　　④非生産的

　　　　⑤規則があること

　　　　⑥虚構

　2.7なぜ、遊びの要素を取り入れるとコンプライアンス違反が減少すると考えるのか。

　　　・余裕が出てくる

　　　・視野が広がる（外界思考）

2.8コンプライアンス違反防止策

　　　・仕事に遊びの要素を入れる

　　　・コンプライアンス活動のなかに遊びの要素を入れる

　　　・仕事と遊びが交わるところのコンプライアンスを考察

　　　・組織の同質性の排除

　　　・上司に反対しない風土の改善、曖昧な空気・雰囲気の排除

　　　・仕事と遊びの関係を密にする

　　　・社員が余裕を持ち、遊びに参加できる環境づくり

　2.9人間疎外の労働から本来の労働への転換（遊び、楽しさ、喜びのある仕事へ）

３．おわりに

　・仕事と遊びは対立する概念

　・仕事を人間的なものにするために遊びの要素（楽しさ、喜び）を取り入れる。

　・新しい共同体（One Team）の創造

４．まとめ

　・今後のあり方

以上